

Wri NewsLetter 69

1978年4月 日 大阪市あべの区旭町2-12-2 戦争抵抗者インタナショナル日本部

とき 9月9日(土) 午後6時30分
 ところ 梅田 大融寺 (電話・31-58180)
(大塚まがらみ新聞所を住所とする)

丸 原南博市民講座 2

福山火電阻止・旧料金を払う会の児玉大成さんを囲んで

ちよろど一厚まき、たいまつ新書から刑行された『軒下のたにかいー福山火電阻止・旧料金を払う会編』御用をよんだときは、シヨツクだった。 その「まきがき」トコわれわれは、たにかいを始める前より、よりしたにかになり賢くもなつた。そして何よりやさしくなつた。：へ自ら燃えなければ何処にも光はないVの合言葉をも名実ともにわれわれのものとした。たにかいはさらに続くだろう。だがこのたにかいは、われわれが愛わつたという確かな手ごえを手にしているかぎり、敗北することはありえない。：Lの通り、いわはぶつらの父親をして母親たら市氏の山ゲルトが、何と自在でしなやかなたにかいをして

いることかーというおどろき。

それにもまして、そのすばらしい人々のたにかいに内心からゆざぶられて、「こりやアアぼくも電気料不払いを、どうしてもやらすあかんア」という衝動のおもいが、そのごく長く胸裡を去らなかつた。

そのとき捲かれた一粒の種子が、ぼくのなかでまがくとよみがえつたのは、ことし6月末のハオ一期反原発市民講座最終回でみんながそれぞれにへ私の反原発Vをしやべつたとき、日消連のYさんが電灯料金を不払いの向壁を提起したときだった。

電灯料不払いの運動は、まず何よりも家ぐるみのものであり、とくに女性、主婦の主導のもとに、むしろ男たちは女性と共同し支える役割を要することが求められているとき、Yさんの提起は、ぼくにとつて何よりのありがたし機会だった。

ぼくはいまへ反原発Vを去いながら、一方で原発建設のために確実に使用される電灯料を払うことで、その推進に手をかすという矛盾を、やむをえないままに犯している。

といつても、万が一にも電気が停められるというような問題をか、えは運動は、思えばとてつもない大へんなことだ。 児玉

○ウリニエースハモリス希望の方は、宛名記入宛印手紙付済の送付用封筒を半紙大(65×10枚位)毎部所へお送り下さい。

あう君がみちやんにはせられて30日(3日)と三里塚へ遊びに行きました。向うもくにも面合してました。その北村は三支年通信委員の苦。

さん大成さんの経験や知恵をお借りして、いろいろな事情で電気がとまると困るという人や、親がかりやアパート住いで、不払いをやりたくない人をも一しよにした一それゆえにいろいろの創意工夫をこらした方法での運動を危え、つくりだす本端になつたらうと思つて、
へ反原発とへ電気料一この私たちにとつて一番日常の具体的な問題一都市で反原発を語るかぎり、どうしても避けて通れぬ課題一について、みんなで一しよに考えたい。この機をのがさず、仲間をさそつて、ぜひ。ノ 集りは、原研連らしい、みんながかやがやの隆談合風にやります。



〔ダ足的付証〕 電気料金不払いは、オ一に、まず家ぐるみとならざるをえないことによつて、へ反原発を自分のもつとも身近かな日常基礎のところでの、しかも具体的な論理(説得)行為、関係の問題として私たちにつきつける。

オ二に、これが例えれば東京、札幌、福山などの先例にもおのずからあらわれたように、女の力のすばらしさを如実に示し、また女性に主導されるべきかといとしての意味一反原発運動における女性の現代史的意味一をまた、ほくもぶくめて甲乙にちつきつける。

その意味でへ反原発を口にしながら、このへ電気料不払いの集会について、積極的に関心をよせない

まうな、とくに男体をば、ぼくは信用しない。再び、ぜひ当夜きて下さい。

9月15日(祭) 后1〜9 於エンカウンタースクール
『非暴力直接行動訓練』(要証) 会費 千五百円
定員 制限あり
阿木さんと三輪さんがトレーナー。

前回の大評判をうけて、もう一度という人や、こんどの機会はぜひと女つておられる方のために、阿木さんたちがきてくれます。へパンフ非暴力訓練とは何かをよまれ、いま原研日高現地問題に取組まれている方はとくに、その行動の武装として、参加を期待してきます。

9月16日 PM 3〜7日 AM 10。於エンカウンタースクール
オ一部へ非暴力セミナーとスライドVTV
阿木・三輪・ジョンさんと共た、会費一〇〇〇円
9月19日 PM 7〜15 映画へ虹の民V上映会。於エンカウンタースクール。会費五〇〇円 解説阿木さん

尚、その他、ジョンが17日(19日)と体があいていいるというので、ごくり行き当りばつたり、15日の会に参加できない人をおつめて、訓練の集りも開けるかもしれません。ち一切今、既詳細問合せは047-410の公へ

切手のコレクションをしています。これをあさりし戸封筒の切手はのり付きです。

あせひまきちウリから 4日夜記

★ 8.26(27) 反原発運動全国連絡会が東京でひらかれた。ともかく発刊された「反原発新聞」を媒体として全国各地に散在する運動体が連絡しあうこととして都市と現地とが何らかの結びつきを見出しつくり出すことは、とりわけ喫緊のことだという思いから、そのひとつのふみ出しの意味もこめて、出席した。(その日、ふうさくろり子はんらは日高でのピラマキ合衆、とてもピラガタイミングよく、合衆も大成功だったやうだ) (同日、千葉で78年度全国救護活動者会議が開かれ、残念ながら朝霞のほかなかつた。)

さて連絡会々試は、④ようやく4号まで出した反原発新聞の現状、編集と記事内容、配布数と財政など) ⑤自己紹介的報告と交流 ⑥10.26反原子力共同行動などについて。

報告は多分入新肉へのると思うので省略するが、特記するニミをあげると、①現在すでに赤字百数十万で、空白地帯や当然購読してもらえない分界への拡張が切実な問題 ②女川で原発建設予定地(ゲート前)その他の隣接地を電力会社に先んじて買取った、これを全国反原発運動有志の出資によつて共同所有とするべく計画をすすめている。③原船むつの佐世保入港抗議船を出す計画が、められ50トンの舟もチャーターして見ることがあるが問題は、資金原油代10万をふくめ当面50万円

を何とかしなければならぬ。抗議船は、9月29日九州

州住民闘争交流田舎合同(Shimane)鹿野島県志布志湾一泊原から大平海岸を各地住民運動と交流しながら青森県むつ湾へ10月初旬、そこからへむつ湾の前泊に随航して日本海岸住民運動との交流支援をうけつ、10月12日前泊佐世保へという日程。八三里坂渡港、原船むつ艦船をす、める九州住民の船といつた名で、いま検討中。実現のときは協力支援をいとうもの。⑤10.26反原子力週刊、全国的な連帯・共同の意志を明らかにしつ、各自各地の企画を交流させ、船をば共通のシンボルマーク・キャッチフレーズなど考えてはーということ。⑥反原発新聞?でパンフとしての入反原発マンガの刊行があるかもしれない。など。

さてこの集會に出席しての帰りのぼくの一つの感想は「都市運動者と現地運動者との関係は、何となく意識のズレがあること。都市の運動としては、現地へ都市から出かけていくという従来の形より以上に、うまく結びつくものというが媒介というか、共通する具体的目標を、まだ見だせないままであること。これは都市側のもつと積極的な努力と創造的活動を必要とするということと共に、現地運動の時局的な闘争の緊迫性という条件を克服した、よりひろい視野での都市や他の反公害運動との他への近づき

○日高原発の現地状況は大幅動じて好転してきた。下部組合のつと上伊予連合組合長辞任を提出。発会南催請求書もに署名。20日にも協会...

○ 田田向子さんを支え来たまう会の三エース(三支部通信)が出版した。よんで下さい。一部宛田、ウリ人申じま。

★ 8月20日と9月3日



29日、成田ニニ五七号を支え笑に申う会結成の集り
があつた。そしてこの切号がみんなの反人「奥田向子
さん」^(ぼくが支えたい)というところをこの日けいめて公開した。五月20
日に逮捕されて以来、およそ百日間、彼女は梅力側の
数十日にわたるしつこく巧妙な誘導尋問と威迫にもか
かわらず、その身分、名前、年令、出身地方を想定さ
せる材料の一と言さても、つまり身元を調へ出す一汗の
手かかりをも、敵側に与えなかつた。(これは大した
ことである。そしてあべこべに彼女は、デカと検事が
入れがあり立ち上がり、手あかえ品をかえ総力をあげ
て彼女がらきき出せうとした、攻めしはかりの手練手
くだの数々、そのきやめて詳細な記録を、ぼくらへの
手紙のなかで記述してきて、これはパンフ人書翰集✓
として29日の集會参加者に配布された。百回以上のカ
ンパ(ハ、送料)で入手がきまる。ウリへ申じみ)。この
20通に及ぶ手紙につづられた、正確な記録、それをか
いた強靱でやわらかな心もまた、大したものである。
集會は三里塚からひう君の旧知八小泉みよさん
がストによんで、60数人、基調報告やアヒールなどめ
き、というすこし形やぶり、とてもうまくみんなの

心がより集つたものになつた。ぼくは思つた。み
よちゃんも、政治状況としてでない三里塚の一
面を語つて、ぼくをこくに三里塚人と近付けた。そ
のあとみよちゃん鞆運をかねた二女会で「ハイヤハ
」(ナント30人ちかくが鞆物でついできた)。

結成集會の印象を、どうだったとけ子さんにきい
たら「コラうーん。みんながしやべつたことはとて
も内容的によかつたけど、ちよつとお過夜みたい。
じんみりしてたという感じがなくて、全部が向子さ
んのことを語る一つという感じでまとまりすぎて」
と云つた。それはぼくの気付かぬことだつたが、云
われてなるほど、と思つた。つまり、「びろぼ」の仲
向たちがそれこそ何回も準備会をもち、詳細にプロ
グラムや進行を練つて、ほんとにたんねんな集會つ
くりを事前にすゝめたことの完全さが、そんなと
ころにもあらわれたいらう。

準備というところ、3日の八三里塚田部落✓上使と
バガリーの会は、向子さんを支え共に闘う女性たち数
人の発起、推進で、しやにむにひらいたという感じ
だつたが、何と百数十人(男20人位、幼乳児は在外女性)
ワンワンという騒がさで、ぼくはびつくりしてしま
つた。そして準備不足は、出てきた色んな人たちの
助力で、とてもうまく？ 処理されたと思つた。これ
もおどろきだつた。

⑤

宇利乃奈加乃乃安伊古止波 櫻天乃乃里越 ウリへの送金は 振替・大阪三三七三七一ウリ人書翰集